

#### 4. 民主的な学校づくり分科会

##### ◎今年の討議の柱

- ①生徒、父母、教職員、学校はどうか。実状を出し合い、「職場要求書づくり」についても交流する。
- ②ゆきとどいた教育を保障する民主的な学校づくりのための実践例を報告しあう。
- ③PTA活動について交流する。
- ④土曜活用の実態—各学校現場での対応
- ⑤高校再編計画と新しい学校づくりへのとりくみ
- ⑥校務支援システムの課題に迫る。

##### ◎推進委員長

鈴木 哲史（葛巻高校）

である。

県内外ともに高卒求人�数字上好調であるが、子どもたちのニーズに応えられる求人状況からはほど遠い。大学・短大等上級学校への進学指導についても、各学校の実態と課題を把握し、検証し続けなければならない。特に、上級学校へ進学する子どもたちの奨学金問題は、子どもの貧困問題・格差問題・労働問題等とも深くかわる深刻な問題である。

子どもたちの進路環境についての情報交換を深め、できるだけアンテナを拡げて、子どもたちのよりよい進路実現につなげていくことは、本分科会永遠のテーマである。

##### ◎推進委員長

鈴木 俊（紫波総合高校）

#### 5. 高等教育・進路保障と労働教育分科会

##### ◎今年の討議の柱

- ①生きる力をつける進路指導・労働教育の実践
- ②地域社会を支える後継者を育てる進路指導の実践
- ③中高一貫教育の現状と課題
- ④選抜制度の諸問題
- ⑤高校再編に関する情勢と諸問題

##### ◎分科会アピール

分科会の方向性を改めて認識し直すために、本年度から分科会名称を、日教組全国教育研究会の分科会名と同一にした。現場からは特に、労働教育の視点からの発言を多く期待したい。

震災以降一時凍結されていた高校再編問題が、昨年度末から動き始めた。地域に高校を残すという観点からも、また地域で学びたい全ての子どもたちに教育権を保障するというインクルーシブ教育の観点からも、定員内不合格者を出さないという日教組方針に関する議論が、今問われている。

併設型中高一貫校である一関一高は、昨年度の素晴らしい進路実績を内外に示しているが、現状の検証が必要である。一方で、連携型中高一貫校である軽米・葛巻の現状と課題は、今後の地域の高校のあり方に指針を与える。

また、高校の推薦入試について本分科会は以前から種々の問題点を指摘してきたが、推薦入試改善を求める運動は、岩教組・高教組合同で開催される当分科会における、大きな存在意義

#### 6. 両性の自立と平等をめざす教育分科会

##### ◎今年の討議の柱

- ①性的マイノリティの抱えるジェンダーバイアスについて
- ②職場や家庭に残る性別役割分担について
- ③ジェンダーによる進路指導・社会制度・慣習の見直しについて
- ④教育をとりまく課題（制服、ジェンダー、性的マイノリティの扱い等）について

##### ◎推進委員長

及川 美佳子（一関第二高校）

#### 7. 情報化社会と教育・図書館教育/情報教育分科会

##### ◎今年の討議の柱

- ①学校図書館の実態と問題点
- ②岩手教育情報ネットワークの実態と問題点
- ③教科「情報」も含め、情報文化・メディアリテラシーについて

##### ◎推進委員長

川崎 博子（盛岡南高校）